資料６－４

別紙様式１

令和５年12月21日

利用者が動物に直接接触する機会を提供する取組に係る審査申請書

市民動物園会議 委員長　殿

札幌市円山動物園長

下記の、利用者が動物に直接接触する機会を提供する取組について、実施の承認を申請します。

記

１　取組の名称	ザリガニを題材とした教育プログラム
２　実施期間	通年（ひと月につき１回までの実施）
３　実施場所	動物園プラザ、体験学習室又は科学館ホール
４　利用する動物	ザリガニ（ニホンザリガニ及びアメリカザリガニ）
５　利用者の属性	小学生
６　実施の必要性	国内希少野生動物であるニホンザリガニと特定外来生物であるアメリカザリガニを比較観察し、外来生物の問題を解説することで、種による体の違いや生物多様性に関する理解を深めることができる、また、身近な生き物であるザリガニを題材とすることで、身近な自然への関心を持つきっかけとなり、円山動物園が積極的に取り組んでいるニホンザリガニの保全活動について支援を得ることにつながる。 生体、特に腹側を詳細に観察するためには、ザリガニに触れ、持ち上げる必要がある。また、生体に実際に触れることにより、体表の感触や温度、掴む際の力の加える加減等を実感でき、生命を尊重する気持ちや生き物に対する優しさを育むことにつながる。
７　具体的な内容（頻度、方法など）	別紙_資料のとおり
８　動物福祉を確保するための考え方	動物福祉の確保については、別紙資料のとおり。
９　実施責任者	所属：保全・教育推進課　保全・教育担当係 氏名：池田 浩康、阿部　雪絵、堤　若菜
10　備考	【資料】 ・生き物観察プログラム「今日からザリガニ博士」実施計画書

資料６－４

実施計画書（案）

事業名	**生き物観察プログラム「今日からザリガニ博士」**
利用する動物	ザリガニ（ニホンザリガニ、アメリカザリガニ）
目　的	ザリガニを題材に、生き物を観察する際のポイントや、観察することの楽しさを知ってもらう。 また、ニホンザリガニとアメリカザリガニの比較により、外来生物の問題について考える機会を提供する。
場所	動物園プラザ、体験学習室又は科学館ホール
期間	通年実施（ひと月につき１回までの実施）
対象	小学生
参加人数	子ども１名とその保護者を１組とし、２組で１グループとする。 １回の開催につき３グループで実施。（子ども６名、保護者６名程度） ザリガニに触れるのは子ども６名のみ。
内容	【プログラムの流れ】 ⑴　参加者に対象の生き物を想像して絵を描いてもらう。 ⑵　スライドを使い対象の生き物について解説する。 ⑶　本物を観察しながら絵を描く。 　　各グループにニホンザリガニ、アメリカザリガニの生体を各１頭ずつ配置。 　　腹側をよく観察するため、子どもにザリガニに触れさせ、持ち上げさせる。 ⑷　想像と違った点、合っていた点、新たに気づいた点などを発表する。 ※　プログラムは全体で約１時間。
動物福祉の確保	・プログラムはひと月に１回までの実施とする。 ・健康状態を確認し、問題がない個体を利用する。 ・ザリガニは飼育施設から実施会場まで低温管理により運搬する。 ・ザリガニに触れる時間は、１人あたり１頭につき１分間までとする。 ・１頭のザリガニが触れられる時間は、２名の子どもから各１分間まで、合計２分間までとする。 ・各グループに最低１名の職員を付け、指導する。
備考	・アメリカザリガニの生体は保全・教育担当係が飼育管理を行う。 ・メインターゲットは小学校３年生としてプログラムを作成する。 ・展示動物だけでなく、参加者の安全にも十分配慮して実施する。 ・実施方法については、定期的に見直しを行う。